

基本の記号は3つ!

- ……………必須の教科・科目
- ①②………同じ教科の中で、この科目数を選択
- ……………教科をまたいで選択（選択すべき教科・科目数は①②…で表示）

国語の「※除外」の欄は、次の分野が
出題範囲から除外されることを示す。
古文/漢文/古漢（=古文・漢文）。
「古漢」が除外される場合は、「近代以降の文章」が出題範囲となる。

■は、必須の教科・科目を表す。

教科としては必須で、①はその教科内の
1科目選択を、②は2科目選択を示している。
「2科目を受験している場合は高得点の科目を利用」といった場合も①となる。

地歴と公民は別教科扱いとし、教科数もこれに準じているが、地歴、公民が同一試験時間で行われることを考慮して、一つの枠とした。このため、地歴、公民から1(2)科目選択必須の場合は、①(②)の記号を用いた。地歴、公民について、大学が選択の仕方を指定していれば、配点欄にその指定内容を右下のように略記した(特に指定がなく、自由に選択できる場合は、該当欄は空欄)。「倫理、政治・経済」は「倫理&政経」と略記。なお、地歴では同一名称のA・B出題科目、公民では同一名称を含む出題科目同士の選択はできない(大学入試センター指定)。

共通テスト欄

共通テストの科目・配点																				
国語	地歴	公民	数学	理科	外国語		科目数		科目指定		科目数									
国語	世史 A	地歴 A	地歴 A	地歴 B	地歴 B	公民 社会	倫理 政治・経済	数学 I	数学 II	簿記 情報関係基礎	基礎科目 科目指定 全基礎4科目(物化生地)全てが選択対象 基礎は2科目必須 必は必須	発展科目 物理 化学 生物 地学	選択パターン A基礎1科目 B基礎2科目 C発展2科目 D発展2+発展1科目	外国語 リスニング	教科数	科目数	満点			
■	古漢	①①①①①①	①①①①	■	■	■	■	■	■	■	②全	②②②②	可	♣	■	*	200[40]	5-78	900	
■	100	①①①①①①	①①①①	■	■	■	■	■	■	■	②全	②②②②	可	♣	■	*	100[20]	5-78	450	
■	200	①①①①①①	①①①①	■	■	■	■	■	■	■	②全	②②②②	可	♣	■	*	200[100]	英	5-78	900
■	200	②②②②②②	②②②②	■	■	■	■	①①①①	①全	①	①①①①	♣	♣	■	*	英 仏	200[100]	56-67	800	
■	200	□□□□	□□□□	■	■	■	■	①	①	①	①①①①	♣	♣	■	*	仏 英	200[40]	3-3	500	
■	100	②②②②②②	②②②②	■	■	■	■	①△△	①全	①	①①①①	♣	♣	■	*	除 韓	100[20]	56-78	450	

□□□□は、複数教科にまたがって
選択する科目を示し、選択すべき教科・科目数
は①②…で示した。個別(2次)試験欄の
□□□□は、該当する複数科目を1科目扱
いとするを示し、■の印は1科目扱いとす
る科目群に含まれていないことを表す。
複数教科からの選択が2種類ある場合、
□□□□と区別するために、○□□□
を使用(個別試験も同じ)。

配点は各教科の入試科目の下に示
した。選択が複数教科にまたがる
場合は()内に示し、複数教科を
合計しての配点は< >内に示した
(個別試験も同じ)。

△は、当該科目を
「履修した者に限
る」など、受験資
格に何らかの制限
があることを示す。
その教科が必須で
あるかは、同教科内
の他科目の記号に
準じる。

外国語の科目指定欄は次のように
表示した。
「空欄」=「英独仏中韓」の5科目す
べてから選択できる。
「英」=英語が必須。「英仏」=英語・
フランス語からの選択。「英独仏」
=英語・ドイツ語・フランス語から
の選択。「除韓」=韓国語を除く、
など。

英語の[リスニング]項目の記号
の意味は次のとおり。
[*]=リスニングを合否判定に利用。
「空欄」=リスニングを合否判定に
利用しない。
[※]=「リーディングの得点」と「リー
ディング・リスニングを合わせた
得点(換算後)」のうち高い方の得
点を採用。リスニングの配点は、
その内訳を[]内に表示。
リスニングを合否判定に利用する
ものの、配点の記載がない場合は
[-]とした。

英語の代わりに出願資格などに、
英語の外部検定(英検、TEAPな
ど)を利用する大学・学部・学科等
では、備考欄(脚注欄)にその旨を
外検として記載した。

- 地公各2不可……地歴から2科目、公民から2科目の選択は不可
- 地公各1必須……地歴から1科目、公民から1科目必須の計2科目
- 地歴B1以上……地歴B科目を1科目以上選択する
- 公民2不可……公民からの2科目選択は不可
- 地公→1まで……地歴・公民からの選択は1科目まで

共通テスト「理科」は、1～5の順にチェック!

1 まずはこの欄に注目!

この欄に何らかのマークがあれば、理科の基礎科目(2科目必須)で受験できることになる。ここでは、**基礎2科目を1科目(1セット)とみなしている。**

2 次にこのマークに注目!

■は基礎科目(2科目)が必須科目であることを示す。

①は「発展科目」と合わせた中から1科目選択することを示す。ただし、基礎科目選択の場合は2科目となる。

②は「発展科目」と合わせた中から、2科目選択することを示す。基礎科目を選択に含める場合は「基礎2科目+発展1科目」となる。基礎科目を選択しない場合は、「発展科目」から2科目選択となる。

□は、理科の□の付いた科目と、他の教科の□の付いた科目を合わせた中から、下に②とあれば2科目選択、③とあれば3科目選択することを示す。

#は、教科をまたいで理科の基礎科目(2科目必須)を選択した場合は、他の科目を選択した場合よりも1科目増となることを示す。

例えば、地歴・公民と理科(基礎科目を含む)の中から3科目を選択する場合、備考または脚注欄では「地公・理から計3(#4)科目選択」と記載した。これは、理科の基礎科目を選択に含めた場合、合計では4科目になることを意味する。

この一覧では、「理科」について、基礎を付した科目(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎)を「基礎科目」、基礎を付していない科目(物理、化学、生物、地学)を「発展科目」と表記した(共通テスト、個別(2次)試験とも同様に表記)。共通テストの理科は、A~Dの4つの選択パターンのいずれか1つで受験しなければならない。

共通テストの科目・配点												
国語	地歴		公民		数学		理科				外国語	教科・科目数 科目指定 満点
国語	地歴A	地歴B	公民A	公民B	数学I	数学II	情報	基礎科目	発展科目	選択パターン	外国語	
■	②	②	②	②	②	②	②	■	全	◆	■	* 56-8
200	200		200		200		200	■	100	◆	■	250[50] 950
■	①	①	①	①	①	①	①	①	①	◆◆	■	* 5-56
200	100		100		100		100	①	100	◆◆	■	200[40] 700
■	①	①	①	①	①	①	②	②	②	不可	◆◆	* 5-78
200	100		100		200		200	②	200	不可	◆◆	250[50] 950
■	古漢	①	①	①	①	①	①	②	物・化・生	②	◆◆	* 5-78
100	漢	①	①	①	①	①	①	②	200	可	◆◆	200[100] 800
■	□	□	□	□	□	□	□	②	全	不可	◆◆◆	* 56-78
200	③(100)		③(100)		③(100)		200	③	(100)	不可	◆◆◆	除韓 800

共通テストの全体の教科・科目数は以下のように表記した(理科の基礎科目は2科目としてカウント)。
6-6 …… 6教科6科目
56-78 …… 5教科または6教科で、7科目または8科目
35-56 …… 3~5教科で、5科目または6科目
3-35 …… 3教科で、3~5科目

3 科目指定欄で基礎科目の内容をチェック!

基礎科目の内容を以下のように示した。
「全」=物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎から2科目選択。
「物・化・生」=物理基礎・化学基礎・生物基礎から2科目選択。
「物必・化・生」=物理基礎必須、化学基礎・生物基礎から1科目選択。

地歴・公民または理科の発展科目から2科目選択する場合、最初に解答する科目が「第1解答科目」、次に解答する科目が「第2解答科目」と指定されている。第1・第2解答科目の注釈については、一覧では記載していないので、各大学の「選抜要項」や「募集要項」で確認してほしい。

4 「同一名称組合せ」の可否をチェック!

基礎科目と発展科目を選択する場合(Cパターン)、「物理基礎と物理」「化学基礎と化学」「生物基礎と生物」「地学基礎と地学」のように、同一名称を含む科目の組合せが選択可能かどうかを、「可」「不可」で示した(大学公表の場合に限る)。

共通テストの理科で基礎2科目受験を指定している大学が、発展科目でも代替できる「みなし措置」を導入している場合は、基礎科目欄に■や□などの記号を付けるとともに、発展科目欄に「備考参照」「脚注参照」「備考脚注」のいずれかを表記し、当該欄にその詳細を記した([例]基礎2科目指定だが、発展2科目でも基礎2科目とみなす)。また、この場合、みなし措置の対象となる選択方法についても、選択パターンの当該欄に◆の記号を付した。

5 「選択パターン」欄で、理科の選択パターンを再確認する!

次のAからDの中で、大学が提示しているパターンに◆マークを付けている。

- A **基礎2科目**……理科の基礎科目から2科目選択。
- B **発展1科目**……理科の発展科目から1科目選択。
- C **基礎2+発展1**……理科の基礎科目から2科目選択、かつ発展科目から1科目選択。
- D **発展2科目**……理科の発展科目から2科目選択。

個別(2次)試験欄

科目記号の意味、配点の表記については共通テストと同じ。

調査書を点数化(ここでは50点)して利用することを示す。

本人記載の資料等を利用することを示す(「-」は点数化しないことを示す)。本人記載の資料等とは、受験生本人が記入する提出資料(志望理由書、自己推薦書、活動報告書など)を示す。

国語の「※除外」の欄は、次の分野が出題範囲から除外されることを示す。古文/漢文/古漢(=古文・漢文)/古典。

地歴・公民は別教科として扱っている。そのため、「地歴・公民から1科目選択」の場合は、該当科目欄に教科をまたがる選択科目のマーク(□)を付した。

数学A・Bの項目については、大学指定の項目を略記した。略記の内訳は次のとおりで、備考・脚注欄でも同様に表記した。

- 【数学A】**
 場=場合の数と確率
 図=図形の性質
 整=整数の性質
- 【数学B】**
 列=数列 ベ=ベクトル
 統=確率分布と統計的な推測

個別(2次)試験の科目・配点												調査書 点数化	本人記載の資料等	教科数 満点	個別比率 総合計点	備考	脚注	
国語	地歴	公民	数学			理科	外国語			総合問題	小論文							実技
国語 現代文A 古文 漢文A 漢文B 古典 総合	世界史 日本史 地理 歴史	政治 社会 経済	数学A 数学B 数学C	数学A 数学B 数学C	数学A 数学B 数学C	A・B 物理 化学 生物	英語表現I 英語表現II 英語表現III	リスニング 他の外国語	総合問題	小論文	実技	面接	調査書 50	教科数 3 満点 650	個別比率 52 総合計点 1250	備考 共通…5-7または8科目	脚注	
■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	2	47	1700	備考 …理の選択は物理基礎、物理のいずれかを含むこと	1
□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	3	50	1800	備考 …面接は口頭試験を含む	2
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	440	1340	備考 …面接は口頭試験を含む	3
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	58	1300	備考 …地公・理から計3(#4)科目選択	3

理科は、科目内容が「基礎+発展」の場合は記号(■①②□○)のみで表記し、それ以外の場合は備考・脚注欄に記載した。上記の2例は、上は「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」から1科目選択、下は「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」から2科目選択を示す。なお、大学が出題項目や除外項目などを指定している場合は備考・脚注欄に明記した。

面接が点数ではなく、段階で評価されることを示す。

教科数は選択の仕方により異なる場合、例えば3教科または2教科の場合は「3(2)」のように表示。小論文・実技・面接は教科数には含めないが、総合問題は含めている。

備考・脚注欄では、共通テストを「共通」、個別試験を「個別」と略記。また、増・減・空のマークは、2020年入試との比較で、増は入試科目数が増えるもの、減は入試科目数が減るもの、空はその他の変更を示している。そのほか、備考・脚注欄では科目選択の制限など、入試に関する補足・注意事項が記載されているので、必ず目を通すこと。

調査書・本人記載の資料等を合わせて点数化(ここでは40点)して利用することを示す。

英語の代わりや出願資格などに、英語の外部検定(英検、TEAPなど)を利用する大学・学部・学科等では、備考欄(脚注欄)にその旨を「外検」として記載した。

なお、数学A・数学Bの項目が「選抜要項」に掲載されていない場合は、原則として空欄とした。

大学名の横の日程欄では、以下のとおり略記した。
 「前」=前期日程
 「中」=公立大学中期日程
 「後」=後期日程
 「別日」=別日程

外国語の「リスニング・他の外国語」欄では、音声テストの有無と、英語以外の外国語が選択できるかどうかを示した。「*」…リスニング・ディクテーション・聞き取り・書き取り・聴解力テストなど、何らかの音声テストが課されることを示す。「独」「仏」等…英語以外の外国語が選択できることを示し、「英・独・仏」中から1科目「英・独・仏」から1科目の場合は、該当欄にそれぞれ「英」を省略した形で「独仏中」「独仏」などと記載した。

外国語の「コミュニケーション英語I」「コミュニケーション英語II」「コミュニケーション英語III」は、それぞれ「コミュ英語I」「コミュ英語II」「コミュ英語III」と略記した。

編集部注

新型コロナウイルス感染症対策に伴う試験実施上の配慮として、教科書の「発展的な学習内容」から出題しない、出題する場合は補足事項を記載するなど、「発展的な学習内容」の出題に関する注釈については、一覧では記載していないので、各大学の「選抜要項」やホームページ、「募集要項」で確認してほしい。

共通テストの「教科数-科目数」は、志望校の受験に必要な教科数・科目数を表示したもので、これによって共通テストの受験科目を制限するものではありません(指定以上の科目を受験した場合は、原則として第1解答科目や高得点の科目などが利用されます)。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響などから、入試科目・配点は今後変更される可能性もありますので、各大学の「募集要項」で必ず確認してください。